

2014年(平成26年)9月26日(金曜日)

今日の話題



幕末、北海道日本海側にできた交易路「増毛山道」が今月、全体の6割まで復元した。

留萌管内増毛町別荘―石狩市浜益区幌を結んだ道。水平距離約27キ。最高標高は千歳を超える。

復元を進めるのは、NPO法人増毛山道の会。道などに許可を取って7～9月、有志らが休日の手弁当でササ刈りし、増毛町側の最上部 増毛山道産」が会員の支えだ。5キを開削した。

2010年、下部で復元させた11キなどに続く第2弾。雄冬山(1988)直下の急傾斜は茂るササに、難作業を強いられた。

これで、完全復元に向け残されたのは石狩市側の11キとなった。山道は、増毛周辺の漁場を請け負う豪商伊達林右衛門が1857年(安政4年)、開通させた。今額の1億7千万円を投じた。

増毛町側の最上部 増毛山道産」が会員の支えだ。5キを開削した。

一帯の海岸は断崖が続き、人の往来が難しかった。江戸幕府箱館奉行所の命をうけて、漁場間の連絡、北方警備のため開かれた。

完成直後に雄冬山付近まで通行した松浦武四郎は「蝦夷地第一の出来」と絶賛したという。

部分的には昭和20年代まで、交易や生活路として使われた。が、人の往来減とともに廃道化した。

「山道は文化遺産が会員の支えだ。しかし復元した16キの本線などを維持していくのは容易でない。

「石狩市側の復元のメドはまだ立っていません」。中心メンバーからは嘆息も上がる。地域の歴史を刻んできた山道。行政も加わって、今後の活用方法、維持・管理のあり方などで知恵を絞れないものか。再び廃道化しないためにも。

（黒川 伸一）